平成 29 年度第２回岩手県企業局経営評価委員会　議事録

次　　第

１　開 会
２　挨 拶（畠山企業局長）
３　議 事
　(1)　平成 29 年度の上半期の評価について
　(2)　その他
４　その他
　いわて復興パワーの概要について
５　閉 会

出席者名簿

委員長	一関工業高等専門学校電気情報工学科　学科長	郷（ごう）　富夫（とみお）	
委　員	岩手県立大学総合政策学部　准教授	泉（いずみ）　桂子（けいこ）	
〃	いわて生活協同組合　常務理事	金子（かねこ）　成子（せいこ）	
〃	株式会社浜銀総合研究所　シニアフェロー （公営企業　アドバイザー）	佐藤（さとう）　裕弥（ゆうや）	
〃	盛岡ガス株式会社　取締役総務部長	松川（まつかわ）　顕（けん）	欠席
企業局	局長	畠山（はたけやま）　智禎（ちよし）	
〃	次長兼経営総務室長	菊池（きくち）　満（みつる）	
〃	技師長	中屋敷（なかやしき）　暢（とおる）	
〃 （経営総務室）	管理課長	黒澤（くろさわ）　俊一（しゅんいち）	
〃	主幹兼予算経理担当課長	村上（むらかみ）　良二（りょうじ）	
〃 （業務課）	総括課長	細川（ほそかわ）　普基（ひろもと）	
〃	主幹兼事業担当課長	熱海（あつみ）　芳廣（よしひろ）	
〃	電気課長	村上（むらかみ）　敏弘（としひろ）	
〃	土木・施設担当課長	菊池（きくち）　晋（すすむ）	
〃 （施設総合管理所）	施設総合管理所長	朝岡（あさおか）　薫（かおる）	
〃 （県南施設管理所）	県南施設管理所長	野崎（のざき）　裕（ゆたか）	
事務局	経営総務室　経営企画課長	藤原（ふじわら）　清人（きよと）	
〃	経営総務室　経営企画担当　主任主査	赤岩（あかいわ）　正昭（まさあき）	
〃	経営総務室　経営企画担当　主査	及川（おいかわ）　達也（たつや）	

（委員 50 音順 敬称略）

（発言者）	（発言内容）

【　１　開　　会　】

菊池次長　　ただいまより、平成 29 年度第２回目の岩手県企業局経営評価委員会を開催します。本日暫時進行役を務めさせていただきます、次長の菊池です。どうぞよろしくお願いします。

この企業局経営評価委員会は原則公開として開催しておりまして、ホームページ等でも掲載していますのでご了承願います。それではお手元の次第に沿って進行して参りたいと存じます。開会にあたり局長の畠山から御挨拶申し上げます。

【　２　あいさつ　】

畠山局長　　改めまして企業局長の畠山と申します。委員の皆様にはお忙しい中、出席していただきまして、誠にありがとうございます。

また、大変寒い中ではありましたが、高森高原風力発電所へ朝早い時間から御視察いただきましてありがとうございます。おかげさまで、ご覧いただいたとおり 11 基見事に立ち上がっていますが、ここまでくるのにいろいろとありまして、今年に入りましてもクレーン車が脱輪して一時はどうなるかと思ったこともありますが、職員、また請負業者も体制を強化して対応し、何とか予定どおり、全ての風車が立ち上がったところでございます。今は試験調整中でして、予定どおり１月から運転開始という段取りになったところでございます。委員の皆様には、いろいろ御指導たまわりましてありがとうございます。

本日のテーマは上半期の業務の進捗状況について御審議いただくということでございますけれども、ご案内のとおり私ども様々な環境の変化にさらされながら業務を進めているところでございます。自然環境の変化であるとか、経済・社会情勢の変化など、そうした変化の中でも上半期いろいろと取り組んでいるところでございまして、かいつまんで話してみますと、電気事業では、これは言うまでもなく自然環境に大きく左右されるところでございますが、上半期では主力の水力発電で春先に比較的雨が少なく、どうなるかと思ったところですが、その後夏場に向けまして雨がしっかり降って、逆に作況指数などの弊害があったところですが、こと発電に関しては大変いい出水となりまして、上半期の状況につきましては資料の内容のとおりですが、目標を大きく上回る発電量を達成しているところでございます。

工業用水の関係では、これは経済に大きく左右されるというところでございまして、これまで厳しい経営が続いているところでございますが、ようやく最近になりまして、第４次産業革命、ＡＩであるとか、ＩｏＴであるとか、ビックデータとか様々ありますが、そういった中で半導体の生産が大変好調になってきているということで、東芝メモリの北上への進出ということが公表されたところでございます。私どもとしても、これは経営上のチャンスで

あるととらえまして、東芝メモリのニーズに即して対応すべく、鋭意取組を進めているところでございます。

また、地域貢献に関しましても、国の電力の構造改革や、社会情勢の変化、規制緩和や高コスト構造の是正といった中で、電力の自由化、システム改革といった流れが起こり、全国の公営企業の中でも、利益の使い道が自由になってきていることを背景に地域貢献への取組が進んでいるところです。

本県におきましても、本格的に地域貢献に取り組んでおりまして、先般、東北電力とタイアップしまして電力料金引き下げのプランとして、企業局の電力を活用し、県内の企業に対する電力料金を５％引き下げるという内容で発表させていただき、１２月１日から受付を開始するという段階になっているところでございます。このような様々な環境の変化に対応しながら上半期取り組んでいるところでございまして、本日は、上半期の進捗状況というところの御意見を賜るわけでございますが、それにとどまらず、様々な環境変化への対応という視点でも幅広く御意見を頂戴できればと思う次第でございます。

以上、よろしくお願いを申し上げて御挨拶とさせていただきます。

菊池次長　本日、松川委員におかれましては都合により、欠席することで連絡いただいておりましたので御了承願います。それでは議事に入りたいと思います。以降の議事進行は、評価委員長である郷委員長、よろしくお願いいたします。

郷委員長　まず初めに、本日の現地視察につきまして、対応ありがとうございました。

さて、本日は平成 29 年度の上半期の評価について協議を行います。前回の７月に行われました第１回の経営評価委員会では、第１四半期の取りまとめを報告していただきましたが、今回は上半期ということで、総括及び今後の展望について御審議いただきたいと思います。

事務局から配布されたタイムスケジュールに沿って進行しますので、御協力をお願いします。

【　３　議事　】

郷委員長　それでは議事の「平成 29 年度の上半期の評価」の審議に入ります。また、説明は電気事業、工業用水道事業、共通的事項の３つに分けて行ってもらいます。それでは電気事業の方から説明願います。

(1)　平成 29 年度の上半期の評価について

経営総務室　藤原経営企画課長が下記資料を用い、平成 29 年度の上半期の評価（案）について説明。最初に電気事業から説明を行った。

資料１　平成 29 年 評価の総括（上半期）（案）

資料２　平成 29 年度 経営評価総括表（上半期）（案）

資料３　平成 29 年度 行動計画取組状況一覧表（上半期）

参考資料１　平成 29 年度 供給停止の原因とその対応一覧
参考資料２　電源接続案件募集プロセスについて
参考資料３　「いわて復興パワー」の概要

郷委員長　　ありがとうございました。ただいまの説明に関して、質問・御意見等ありますでしょうか。

郷委員長　　それでは私の方から細かい話で恐縮ですが、資料２の３ページ目の達成状況に「風車制御装置や電力変換装置の異常」とありますが、この内容は具体的にどのようなものでしょうか。

村上電気課長　　まず、風車制御装置とはＰＬＣと言いまして風車を制御する一種のコンピュータの不具合で、電力変換装置はＢＴＢと言いまして、発電した電気を安定的な周波数へ変換し、送電する装置が故障したものです。

郷委員長　　また、同じところで、胆沢第四発電所での水車軸受の不具合とありますが、これは、参考資料１にある供給停止となった入畑発電所における軸受の異常とは内容が違うものでしょうか。

村上電気課長　　胆沢第四発電所の水車軸受の不具合に関しては、メカニカルシールの不具合が原因でして、メカニカルシールとは水車の軸受を伝って外部から水が浸入しないように封をしているものですが、これが焼損してしまったものです。通常は水で冷却しているものですが、その水が切れてしまい焼損、破損し、水が内部に侵入してしまったもので、交換を要するものとなりました。

郷委員長　　ありがとうございます。他にありますでしょうか。

金子委員　　大きくは２点あります。一つは「いわて復興パワー」の取組についてですが、これは新聞記事で拝見しまして、非常にいい取組ではないかなと思い、１２月１日から応募受付ということで、今は説明会も終わられていると思いますが、これらの反応はどうなのかというところをお伺いしたいのが１点です。

もう１点は、今日、高森高原風力発電所を見させていただいて、台風 10 号災害に伴う道路の被害については昨年度報告を受けていて、それらの遅れもありながら、今年度の１月からの稼働に間に合わせられたということは敬意を表し、評価しております。ただ、今年度の１月の稼働ということで本年度の予算を組んでいると思い、各年度の経営に与える影響はないものと思いますが、最初の計画からすれば運転開始がずれているため売電収入に変化があるということと、クレーン車も増やしているということもあり、当初の計画から工事費用が増えているのかどうかということを確認したいと思います。当初計画から稼働が２か月ずれたということ、工事費用が変わることなどで、投資回収の計画の見直しはされているのかどうかということをお伺いします。

郷委員長　　それでは１点目の「いわて復興パワー」についてお願いします。

藤原経営企画課長　　「いわて復興パワー」の反応についてですが、最初は正直に申しあげて反応が少なかったというところです。最初の盛岡での説明会の時は参加者が１桁台でしたが、その後、沿岸部では３０～４０人という参加者となっています。また、電話での問い合わせにつきましても日に日に問い合わせは増えておりまして、そういう点では１２月１日の応募開始時期には結構応募があるのではないかと思っております。

郷委員長　　では次に２点目の高森高原風力発電所の運転開始時期のずれや工事費用の話についてお願いします。

村上電気課長　　高森の工事費については、クレーンを増やして対応しておりますが、請負者側でのクレーン脱輪などの理由がありますので、現在の工事費用の中で行うこととしており、こちらから追加で支払うことはなく、当初から変わりはありません。

また、運転開始時期の遅れについては、高森高原風力発電所は売電に固定価格買取制度を適用しておりまして、運転開始から 20 年間の買取価格が決まっています。運転開始のスタートはずれましたが、運転開始から 20 年間は単価が保障されているので、入ってくる料金は変わらないということになっており、投資回収は運転開始から 15 年で回収できる見込みとなっています。

郷委員長　　よろしいでしょうか。他にありますでしょうか。

佐藤委員　　まず１点目として、資料２の３ページの達成状況に記載のある「水車の軸受の不具合」、「風力の制御装置などの不具合」、これらについては厳然とした運用をした上で、装置不具合の予見可能性があったのか確認したいと思います。

２点目は、同じページの「２　行動計画の主な取組状況等」の２番目に「施工方法の大幅な変更により」とあり、この点が３の問題点となっていると思いますが、この点の解釈としては、手続上の問題としての相手方の国土交通省の問題なのか、又は、それ以前の許可の審査においての企業局側の見通しの甘さだったのか事実を確認したいと思います。

郷委員長　　それでは、１点目の不具合についての確認についてお願いします。

村上電気課長　　胆沢第四発電所の軸受について、先ほどメカニカルシールの焼損と話しましたが、そのメカニカルシールは摩擦熱で焼損しないように冷却するための水を外から導いているのですが、その穴が錆などにより詰まったということがそもそもの原因です。原因については製造メーカーと議論したところです

が、メーカーとしても初めての事例ということで、今後はその管の太さを太くするなどの対策をして、冷却水が途切れないようにしようという対策をしています。

稲庭の制御装置については風力特有の振動が原因で、コネクタが弛んだこと、又は摩耗によりケーブルがショートするということが原因となっており、他の水力にはあまり見られない故障となっています。

細川業務課総括課長　胆沢第四発電所の不具合について１点追加ですが、今までの発電所では流量、落差に応じてその地点に合わせた水車発電機を個別に設計・製作していたところですが、胆沢第四発電所は出力170ｋＷと小さい発電所でして、胆沢第四発電所で採用したのは、いわゆるメーカーのカタログ品といいますか、標準的にＬ型、Ｍ型、Ｓ型と言う様に大中小の水車発電機をメーカー側で事前に用意しており、注文があれば受注生産をして納入するという標準設計のタイプとなっております。そういったこともあり、今回の事態があって、メーカーから内部構造を示され、初めてこのような構造になっていたということを知ったところもあります。

我々も事前に内部構造を知りえなかったということもあり、こういう事態を想定するのは難しいということを付け加えさせていただきます。

菊池土木・施設担当課長　次に、河川法の手続きについてですが、問題点に「河川法許可の審査が従来よりも慎重になり」と書いてありますが、河川法の許可を行う管理者は当然、治水に重きを置いておりますので、河川内で行う工事、あるいは水を切りまわす際の仮設の工法についても、治水上安全が確保される工法が求められますし、施工中においても治水上の安全を低下することなく施工が可能かということを注視しております。

従来から河川管理者は治水第一にしておりますが、近年、全国的にもゲリラ豪雨とか想定以上の降雨が頻発しておりまして、想定外の案件についても対応できるようにと、河川管理者も慎重になってきているところがあります。

このような状況の中、申請者側の企業局の方も河川法協議に際しては、今までどおりの形で説明していたところを今後は期間を要するということがありますので、「５　今後の課題・取組」にも書いてありますが、事前相談を早い段階で行いながら、計画とかを早めに整理して許可を受けるという形で工事を進めていきたいと考えているところです。

佐藤委員　ありがとうございます。気になっていた点は事故事例が生じているのにかかわらず評価が「概ね良好」ということがはたしてよいのかと思ったところですが、先ほど事務局からいただいた回答ですと、どうやら企業局としてコントロールが不可能な要因ということで理解しましたので、「概ね良好」という評価は、根拠に基づいたものであると思いました。

引き続きもう１点だけ質問ですが、参考資料３で説明いただいた「いわて

復興パワー」について、このスキームについての質問です。まず、低減率で一律５％ということで非常に魅力的な新しい取組だと思いますが、なぜ一律５％もの電気料金を低減できる仕組みができたのか、その財源はどこからか、または誰がどのように負担したからできた仕組みなのかということを教えていただければと思います。

藤原経営企画課長　まず財源ですが、全額東北電力の持ち出しとなります。企業局としての支出はございません。

佐藤委員　「いわて復興パワー」のスキーム自体には企業局から知事部局の一般会計へ繰出し金が流れているみたいですがこの点についてはどうなっていますでしょうか。

藤原経営企画課長　一般会計への繰出しについては、企業局自らの利益の中から繰り出しているものです。

佐藤委員　繰出したお金については、知事部局からはどう流れるのでしょうか。知事部局ではどうやって繰出し金を使用しているのでしょうか。

藤原経営企画課長　知事部局では、「震災復興」や「ふるさと振興」関連の施策に対して、繰出したお金を予算として事業にあてる流れとなっています。

佐藤委員　今、詳しくお伺いしたのは、企業局の今までの経営活動で生み出された利益を県民に還元、利益貢献しているという点が、途中で知事部局を経由していますので、おそらく県民には分かり難いものとなっていると思います。
やはり、企業局としての貢献ですので、例えばではありますが決算書の事業報告書などにこのようなスキームを導入したことを残すなど、一般会計と企業局が一体的となってやっていることを明らかにすることが重要と思いますので、参考までに意見として申し上げます。

菊池次長兼経営総務室長　先ほどの委員からの指摘ですが、一般会計の予算を公表する時点でこの事業には企業局の「いわて復興パワー」からの財源をあてましたということを公表してもらおうと思っています。どういう事業にあてたのか、財源は何かということをしっかりと公表しながら、企業局の貢献ということを周知したいと思っています。

郷委員長　ほかにありますでしょうか。

泉委員　参考資料３のところで、東北電力から電気料金を割安な価格で提供するために申請をするとのことですが、応募者は申し込んだらすべて適用されるものでしょうか。または抽選で当たるものなのでしょうか。

このスキームがどこを狙っている地域貢献なのかということで、震災復興の下支えということであれば、薄く広く全員が恩恵を受け入れられるようなものと思ったのですが、応募に関しての条件も付いていますし、先着順ということもあり、早い者勝ちなのかということをお聞きしたいと思います。

藤原経営企画課長　まず、申込みについてですが、記載のとおり先着順になります。受け付けた都度、内容を審査して応募条件該当の回答をするものです。ただし、供給電力量の枠が５億なにがしとありますので、上限に達した時の最後の応募については抽選で決めるというスキームにしています。

また、１件当たりの割引ですが、高圧の契約ということで 50ｋW～2,000ｋW まで幅があり、参考資料３の２枚目にあるとおり、中小の工場で年間約 40 万円の割引になりますし、ビル・商業施設については年間で約 23 万円になるのではないかと思っています。

電力の契約は圧倒的に低圧契約が多いのですが、こちらですと５％割引で年間数千円の軽減にしかならず、ある程度インパクトのある事業にしたく、高圧契約に限定して支援していきたいと考えているところです。

金子委員　もう事業内容が決定しており、説明会もしているということなので、関連した意見になりますが、支援対象者の区分けのところで高圧の需要家だと零細のところは対象にならないということもあり、支援の意図からするとどうなのかなと思いました。被災地の中小零細企業も対象になればいいと思ったところです。

藤原経営企画課長　その点については、電力会社と協議した時点で、低圧も支援対象としたらどうかと企業局でも意見したこともありましたが、政策効果などの観点から高圧に限定したところです。

郷委員長　よろしいでしょうか。ほかにございますか。なければ次の工業用水道事業について説明をお願いします

(1)　平成 29 年度の上半期の評価について（工業用水道事業）

資料２ 平成 29 年度 経営評価総括表（上半期）（案）

資料３ 平成 29 年度 行動計画取組状況一覧表（上半期）

郷委員長　ありがとうございました。ただいまの工業用水道の説明について、御質問・御意見あればお願いします。

郷委員長　それでは私からですが、工業用水の経済性の確保にある合冊発注というのは頻繁にやられるものでしょうか。

細川業務課総括課長　予算編成段階では、工事等を個別に予算編成するのですが、実施段階では、工種や地域など似かよったものをまとめて発注しています。まとめて発注す

ることで諸経費などが少なくなるということで、そういったことで経費を縮減しようということを毎年行っています。

郷委員長　　ありがとうございます。そのほかはよろしいでしょうか。では次に進みます。共通的事項の説明について説明をお願いします。

(1)　平成 29 年度の上半期の評価について（共通的事項）

資料２ 平成 29 年度 経営評価総括表（上半期）（案）

資料３ 平成 29 年度 行動計画取組状況一覧表（上半期）

郷委員長　　ありがとうございました。ただいまの共通的事項の説明について御意見・御質問あればお願いします。

郷委員長　　大学生のインターンシップというのは今年何名受け入れて、採用の見込みというのはどのような感じでしょうか。

黒澤管理課長　　本年度のインターンシップには大学生２名が参加しておりまして、うち１名が採用内定になっております。

郷委員長　　インターンシップの期間はどのぐらいですか。

黒澤管理課長　　５日間となっています。

郷委員長　　続けての質問で恐縮ですが、ダム水路主任技術者や電気主任技術者は現在何名いるのでしょうか。

黒澤管理課長　　現在、ダム水路主任技術者は９名おりまして、電気主任技術者は３種、２種とありますが、３種はある程度人数はいるのですが、２種が少ないもので、ここを強化し、３種から２種へ実務経験申請により資格取得し、増やして行きたいと考えています。

郷委員長　　ありがとうございます。ほかにありますでしょうか。

泉委員　　資料３の７ページ目で、植樹・育樹活動へのアンケート実施・分析とありますが、その内容について教えていただければと思います。

藤原経営企画課長　　主には、来年度植樹等を実施する予定があるかということを聞いておりまして、また、企業局の認知度についても併せて聞いております。

泉委員　　何件ぐらいのアンケートを実施していますでしょうか。

藤原経営企画課長　支援する団体すべてにアンケートを実施していますので、12 件程度となっています。

中屋敷技師長　アンケートについて補足説明ですが、植樹活動に関しては２つアンケートを行っています。一つは、支援する団体へのアンケートと、二つ目はここには記載していませんが、植樹活動をしている人へのアンケートでして、植樹を行っている各地で 10 名程度にアンケートを実施しており、内容としては主に企業局への認知度、理解度についてアンケートを実施し、分析を行っています。

郷委員長　ほかにありますでしょうか。

佐藤委員　コメントですが、資料２の 10 ページにある新採用職員、若手職員への研修はしっかりとしていただきたいことまず要望させていただきます。

さらに、大学への講座に参加して企業局ＰＲということは先ほどの議論で出たところですが、実際採用の実績まで結びついており重要な取組であったことと思うのですが、私はこの取組の重要性というのは、インターンシップの受け入れや大学との連携をやり続けるということ自体が重要で、今後も続けて行うことを強くお願いしたいと思います。今年度は採用まで結びついているとのことですが、こういったことは毎年あるわけではなく、近年の行政評価の観点ではすぐに成果や毎年の数字として求められるところですが、本当に重要なのは「やり続ける」ということで、この点をしっかりとした認識をしてもらい、インターンシップ受け入れをやり続けた結果、将来の企業局の展開に、場合によっては職員として、場合によっては県民としてあるいは事業者として、またはサービスの受け手として、貢献してくれるものと思いますので、これについてしっかりと継続する仕組みを作ってほしいということを２点目の要望とします。

３点目としては、ここの問題点にもあるように震災復興に伴う土木職員の欠員については、ここ岩手県にとどまらず、全国的な問題となっています。

一昨日に土木学会に参加した議論では、この土木職が最近は官民連携の観点から行政機関の方々が民間に求める傾向ということもありますが、民間でも社員、職員の確保が困難となっており、民間に期待されても貢献できない部分があるという土木学会での意見がありました。そうしたことを鑑みると、今回資料で提起されている必要人員の確保は非常に重要なことであって、企業局としてもこの点をしっかりと取り組んでほしいと思います。

もう一つ最後に要望ですが、リスクマネジメントや長期計画の取組については、検討チームにおける会議を活発化してほしいと思います。また、このような長期方針を作る時は大きな転換点となるように、それにかかわる職員の知識も求められる時期でありますので、場合によっては出張旅費を掛けてでも職員の能力向上に取り組む機会を作っていただきたいと思います。また長期方針の作成では、内輪の議論にとどまることなく、外を見据えながら作

ってほしいということを要望しておきます。

郷委員長　ありがとうございます。他にありますでしょうか。

藤原経営企画課長　本日御欠席しております、松川委員からメールで御意見を頂戴しておりますので、この場でご紹介させていただきます。

組織力の向上では、大学生のインターンシップを受け入れたとありますが、是非今後も積極的に受け入れられることをお願いしますとのことでした。人材の確保につきましてはどこの企業も苦労している課題で、盛岡ガスも苦戦しているということで、大学に企業をアピールする機会が重要であることを痛感しているとのことです。

また、11 月 19 日に岩手大学で開催されました「ふるさと発見！大交流会 in iwate2017」に盛岡ガスも参加したとのことですが、とても盛況であったとのことで、来年も開催されるようであれば企業局でも参加を検討したらどうかとのことでした。

郷委員長　ありがとうございます。インターンシップの受け入れや、継続して取り組むことなど、同じような御意見がありました。

郷委員長　そのほかありますでしょうか。

それでは、平成 29 年度の上半期の評価については、修正点などの御意見は今回なかったということで、事務局案のとおりとしたいと思いますが御異議ありませんでしょうか。

（異議なし）

(2)　その他

郷委員長　ありがとうございます。それでは次に「（２）その他」について何か皆様からありましたらお願いします。

金子委員　今日、高森高原風力発電所を見学させていただきましてありがとうございました。県の企業局として風車が 11 基まとめて稼働するというのは今までないとのことですし、県としての再生可能エネルギーを推進するということでの一つの大きなプロジェクトであると思いますので、稼働にあたっては広く県民にお知らせしていただきたいと思います。

今年の施設見学会では、高森高原風力発電所のコースを設け、多くの方に来ていただいたとのことで、冬場は無理としても春から夏に向けて多くの方に見ていただけるように、進めていただければと思います。

今回、蓄電池施設も始めて見ましたがなかなかインパクトがありますので、そういったことを積極的に進めていただければと思います。

郷委員長　　ありがとうございます。蓄電池施設は先行的な事例ということで、すごく有意義であると思います。是非広くお知らせしていただければと思います。
ほかにありますでしょうか。

佐藤委員　　コメントですが、工業用水道事業の評価としては案のとおり「良好」ということでよいと思いますが、歴史的に、特に岩手県の工業用水は非常に苦しんだ時期が長くありまして、このように問題点が「特になし」、評価も「良好」となったこと自体を短期間の評価ではなく、長い目で見てここまで来たということをしっかりと受け止める必要があると思います。
１点お願いですが、他の団体で危機的な状態から改善したところに携わったことがあるのですが、改善すると何が問題になるかと言うと、苦労した方々が一定の年齢になり、若手中堅の方々の危機意識が薄くなるということがありますので、苦労したということの意識を共有してほしいと思います。
特に、過去苦労した方々が職場でそういう話をすると、時として若い方々から煙たがられる、自分たちの経営改革自慢ととらえられるというような話も他の団体から聞いておりますが、やはり楽観視されては困るということ、企業局が営んでいる事業は、持続することが最大の課題になると思いますので、今回は「良好」という評価をしっかり受け止めるとともに、過去厳しい状況であったこと等についても必要に応じて職場で伝えておいていただきたいと思います。

郷委員長　　ありがとうございます。他にありますでしょうか。なければ、本日の議題は以上になります。事務局からなにかありますでしょうか。

「いわて復興パワー」の概要についての説明と、議事録、今後の予定について事務局から連絡。

藤原経営企画課長　　今まで御議論いただいたところですが、「いわて復興パワー」につきまして改めて御紹介させていただきたいと思います。

事務局　　（「いわて復興パワー」について参考資料３に基づき説明）

郷委員長　　ありがとうございます。ただいまの説明について御質問・御意見ありましたらお願いします。なければほか全体的に有りますか。

事務局　　（今回の議事録、今後の予定について連絡）

郷委員長　　それでは、本日事務局が準備した議事は全て終了となります。議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。事務局にお返しします。

【　４　閉会　】

菊池次長　　本日は貴重な御意見・御助言をいただきまして誠にありがとうございました。今日いただきました御意見を今後の業務にしっかりと受け止めて、取り入れながら取り組んでまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。最後に閉会に当たりまして局長の畠山から一言御礼を申し上げます。

畠山局長　　本日は朝からの視察に加え、この場での御審議と長時間にわたり、また熱心に御審議いただき、様々な御意見や私ども気づかなかった点など誠にありがとうございました。

いくつか、私からもコメントさせていただきますが、まず、地域貢献としての「いわて復興パワー」について、利益の一部を一般会計を通じて県民に還元していくというスキームですが、企業局の事業利益の中から捻出していく事業ということで、しっかりと県民へアピールしていきたいと思いまして、予算の公表段階、事業の実施段階で、企業局の財源で実施していくということをしっかりとアピールしていきたいと思います。

また、「いわて復興パワー」の対象範囲について、どこに焦点を当てるかということは、いろいろな意見があった中で調整した結果でして、一つは他県の状況をベースに議論していたところもあり、低圧需要家ではかなり幅広く、薄くなりまして、政策効果という観点でどうかという議論もありました。かといって大規模な工場などであればそれ一つで供給量の大部分を占めてしまうということで、政策効果が発揮できる高圧需要家で取り組んでいこうと思い、低減率も５％と、先行した山梨では３．５％だったと思いますが復興ということで多少割引率を上乗せし、５％というところで調整したところであります。今後は応募状況を見ながら場合によっては、また内容を考えていく必要がでてくるかと思いますが、まずは高圧需要家に対する割引率５％で進めていきたいと考えているところです。

次に、人材確保については長く続けることが重要とのご指摘をいただきまして、全くそのとおりだと思いました。私どもはある時期、企業局の事業を拡大というよりも現状維持ないし、見直しという時期もありまして、採用を絞った時期もあります。結果、一定期間採用してこなかった場合、次に採用をする際にスムーズに人材が集まってこないということを経験しているものでありまして、今のところ再生可能エネルギーの振興ということで、高森高原風力に次いで、簗川の水力発電所を建設していきますので、採用の方も安定的にやっていく必要があります。そういった形で人数は少なくても継続して採用することによって安定的にいい人材を採用できるということがあるかと思います。その付き合いが断絶しますと、いい人材が採用できないという状況が出てこないとも限りませんので、今後も安定的に採用するように心がけていきたいと思い、大変ありがたい御意見をいただいたと思います。

また、長期経営方針につきましても、外部の方々の御意見に意識しながら、

取り組むことはそのとおりと思っておりまして、特に電気事業に関しては、地産地消の流れ、特に地域限定の新電力が県内にもいくつかでてきておりまして、そういったところとどういうふうに企業局が関わっていくかという大きな課題もありますし、企業局に対する期待も当然あると伺っておりますので、先ほどから御議論いただいている地域貢献についても、地域のニーズを踏まえながら構築していかなければならないと思っております。またそういったことを検討する際には、内部だけで考えるのではなく、外部の御意見も伺いながら考えて行くといったような課題も多々あると思いますので、今後どういう形で伺っていくかについても検討して参りますが、意識して取り組んでまいりたいと考えているところです。

高森高原風力発電所のＰＲにつきましても御意見いただきました。これはまさに県議会でも御意見いただいているところでして、環境学習のモデルケースができたということで、しっかりとＰＲしていきたいと考えているところです。学習面というところは当然ありますが、もう一つは地域でも、高森高原風力発電所を観光の一つの柱と期待しているところがありますので、多くの人が高森高原という地域に足を踏み入れていく一つのきっかけとなるようにと考えております。特に高森高原風力発電所についてはご案内のとおり東北でも例が少ない蓄電池併設型の出力制御型風車のモデル事例でありますし、また、風車タワーに国内唯一というグラデーション塗装を施したという目新しい事例でありますので、一つ呼び物になるのではないかと考えております。このように見るべきところがたくさんありますので、ＰＲをして地域の活性化につなげていきたいと考えているところでございます。

最後に工業用水道の関係で発言のあった、先人の苦労をきっちりと後輩たちに伝えていくことは重要なことと思っています。私たち企業局でも最近、再任用職員が増えておりまして、企業局を定年した後も企業局に残って若い人を指導していただいているところでございますが、経験を断絶しないように伝承していくこと、特に私どもの事業はチームワークで取り組んでいく事業と考えておりますので、職員間のコミュニケ―ションをきっちりと取りながら経験を伝え、とても単独の職員ではできない話ですので、総合力で事業に取り組んでいきたいと考えているところです。

いただいた御意見については、また改めまして内部で検討しながら進めて参ります。本日はどうもありがとうございました。

菊池次長　　それでは、これをもちまして、平成 29 年度第２回岩手県企業局経営評価委員会を終了いたします。長時間にわたり、大変ありがとうございました。